

「医療機関における電波の安全利用に関する講演会」の開催結果

東海総合通信局(局長 三田 一博)は、令和6年9月28日(土)、東海地域の医療機関における電波利用連絡推進協議会(会長 酒井 順哉:名城大学名誉教授)との共催により、「医療機関における電波の安全利用に関する講演会」を開催しました。東海4県の医療機関において電波を利用する医療従事者や臨床工学技士を中心に、82名が参加しました。

冒頭、電波監理部長 伊藤 泰久から、「本講演会では、医療機関で災害時に役立つノウハウの共有を目指し、各講師から災害時のご経験や、医療機関における通信や電源の確保を中心にご講演いただく。今後の医療活動において役立つものとなることを願う。」と挨拶しました。



東海総合通信局 伊藤 泰久

講演1 「大規模災害時を想定した病院の備えを考える」

名城大学名誉教授で「東海地域の医療機関における電波利用連絡推進協議会」会長の酒井 順哉氏から、最近の国内における大地震・津波発生状況などを踏まえた医療機関のBCPの問題点、院外のライフライン・情報インフラの確保と総点検の必要性についてご講演頂きました。



名城大学 酒井 順哉 氏
(協議会会長)

講演2 「東日本大震災における災害保健医療活動の経験」

東北大学病院 総合地域医療教育支援部 教授 石井 正氏から、2011年の東日本大震災で宮城県災害医療コーディネーターとして活動された経験を基に「情報は向こうからはやって来ない、自ら取りに行かなければならない」と言った教訓や「『来るかもしれない』ではなく『必ず来る』災害に対して覚悟と準備を」とご講演頂きました。



東北大学病院
石井 正 氏

講演3 「災害時における医療機関の業務継続について(情報通信編)」

株式会社G-PRIME 代表取締役COO 後藤 達也氏から、情報通信(無線)システムからみた災害時における医療機関の業務継続(BCP)や、外部との通信手段の確保について、最新の情報を交えてご講演頂きました。



株式会社G-PRIME
後藤 達也 氏

講演4 「災害対応も想定した院内・院外の連絡・通信手段はどうあるべきか~クラウド・sXGP・スターリンクの活用も含めて~」

福井大学 医学部附属病院医療情報部 副部長・准教授 山下 芳範氏から、サイバーセキュリティ対応だけではなく、災害もリスクとして対策が必要であることや、能登半島地震でのスターリンクの活用事例及びsXGPの試験状況についてご講演頂きました。



福井大学医学部附属病院
山下 芳範 氏

最後に、東海地域の医療機関における電波利用連絡推進協議会 副会長の神戸 幸司氏から、「協議会が作成・改訂したチェックリストを活用して災害に備えてほしい。」と挨拶し、閉会しました。

参加者からは、「講演を聴いて震災のイメージができた」、「いかに情報通信が重要かがよく分かった」、「sXGPやスターリンクの具体的な話が聞けて良かった」などの意見が寄せられました。

今後も医療関係者等を対象に、医療機関における電波の重要性と、安心・安全な利用への知識・理解を深めていただくよう、支援して参ります。



(一社)愛知県臨床工学技士会
神戸 幸司 氏 (協議会副会長)



会場風景

お問い合わせ先:電波利用環境課 052-971-9107